

# お薬のしおり

## 前立腺肥大症について No.117(H23.11)

東京医科大学病院 薬剤部

泌尿器科を訪れる患者さんの自覚症状のなかで多くみられるものに、排尿困難や頻尿<sup>ひんにょう</sup>があります。これらの症状の原因となっている疾患はいろいろありますが、男性の場合、前立腺肥大症は頻度の高い疾患です。前立腺肥大症は、年齢が高くなるにつれて増えていき、特に増え始めるのは50歳を過ぎてからです。統計によれば、55歳以上の日本人男性の5人に1人に前立腺肥大の症状があることがわかっています。

それでは、なぜ前立腺が肥大するのでしょうか？はっきりした原因はわかっていませんが、加齢と性ホルモンが関与しています。

前立腺は膀胱<sup>ぼうこう</sup>のすぐ下にあるため、前立腺が肥大すると、尿道を圧迫し、排尿障害を起こします。前立腺肥大の症状は、次の7つがあげられます。

- (1) 排尿後、まだ尿が残っている感じがする
- (2) トイレが近い
- (3) 尿が途中で途切れる
- (4) 急に、尿意をもよおし、もれそうで我慢できない
- (5) 尿の勢いが弱い
- (6) おなかに力を入れないと尿が出ない
- (7) 夜中に何度もトイレに起きる

しかし、症状は患者さんによってさまざまです。

前立腺肥大症の治療は、重症でなければ、まず薬物療法を行って、それでも症状の改善が思うように得られない場合に、手術などを考えます。

薬物療法は症状を軽減させる<sup>たいしやうりやうほう</sup>対症療法<sup>たいしやうりやうほう</sup>です。前立腺肥大症に使われる薬の分類としては、「 $\alpha_1$ （アルファワ



ン) 受容体遮断薬」「抗男性ホルモン薬」「植物製剤」などがあります。

◆ $\alpha_1$ 受容体遮断薬 (商品名：ハルナールD、フリバス、ユリーフなど)

$\alpha_1$ 受容体とは、排尿・蓄尿<sup>ちくによ</sup>をコントロールする自律神経からの命令を受け止める部位で、前立腺や尿道、膀胱<sup>ぼうこう</sup>の筋肉に数多くあります。この $\alpha_1$ 受容体のはたらきを抑えるのが $\alpha_1$ 受容体遮断薬です。この薬の作用によって、自律神経の過剰な命令によって緊張している前立腺や尿道、膀胱<sup>ぼうこう</sup>の筋肉が、弛緩<sup>しかん</sup>してリラックスするため、排尿しやすくなります。前立腺そのものが小さくなるわけではありませんが、1~2週間の服用で効果が実感できます。副作用として、低血圧や立ちくらみ、めまいなどがあります。特に高血圧の薬を服用している場合は血圧の変化に注意が必要です。

◆抗男性ホルモン薬 (商品名：プロスタール、パーセリンなど)

前立腺の肥大に影響する男性ホルモンのはたらきを弱め、前立腺細胞が増えるのを抑え、前立腺を小さくする薬です。服用しはじめてから効果があらわれるまでに数か月かかり、服用を中止するとホルモンの作用が復活して、再び肥大してしまいます。副作用として性欲の衰え、肝機能障害などがあります。前立腺がんの場合に上昇するPSA値(血液検査で調べられます。)を下げる作用があるので、前立腺がんの発見が遅れることがないように注意をする必要があります。

◆植物製剤 (商品名：エビプロスタット、セルニルトンなど)

症状を和らげるために使われます。副作用は少なく、効き目もゆるやかにあらわれます。

また、総合感冒薬<sup>そうごうかんぼうやく</sup>や抗うつ薬などのなかには、服用すると排尿困難の症状を引き起こすものがあります。他の病院にかかる場合には、前立腺肥大症の薬を服用していることを伝えましょう。

排尿トラブルをかかえている人は多くいますが、その中には、「歳のせい」とあきらめてしまっている人も多いのではないのでしょうか？前立腺肥大症の不快感は、薬で和らげることができます。また、その他の重大な病気が隠れている可能性もあります。症状がある場合は、ぜひ病院で相談してみましょう。

